

「ウズベキスタンにおける日本語学習者の辞書使用の実態調査および 学習者向け辞書作成への可能性」

ウマロヴァ ムノジャット
タシケント国立東洋学大学
極東南アジア諸国学部日本語科
筑波大学人文社会科学研究所（研究生）

【キーワード】 書籍タイプの辞書 ウェブ辞書 携帯電話・パソコン専用のアプリケーション

1. ウズベキスタン共和国の国民構造及び言語状況

ウズベキスタン共和国は 1991 年まで旧ソビエト連邦に属し、70 年にわたりロシアの教育を受けてきた。当時ロシア語が公用語と定められ、国民統合としてウズベキスタンに特別な教育制度が用いられた。具体的には、初等教育ではウズベク語による指導を行う学校とロシア語による指導を行う学校が存在していた。国語のウズベク語とロシア語はどの学校でも必修科目になっていた。このような教育でウズベク語とロシア語ができるバイリンガルの人が育ったのである。独立後は、ウズベク語が公用語の位置を獲得し、ロシア語は外国語として教えられ、コマ数も減った。現在、初等教育ではロシア語だけでなく、英語も必修科目として置かれている。

2. ウズベキスタンにおける日本語教育

ウズベキスタンにおける日本語教育は、独立直後から開始された。2009 年のデータにより、ウズベキスタンで日本語教育機関数は 12、学習者数は 1,456 名であり¹、人気のある外国語として知られている。

3. 日本語辞書の使用現状

外国語を学習する上で辞書は不可欠な道具であることは言うまでもない。特に中級レベルになると、自習が増え、その際、辞書は学習を支える最も強いリソースになる。こういったリソースの中で、今まで日本語学習者は主に書籍タイプの和露辞書を使用していた。また、日本語・ウズベク語の初級向けの 2,000 語が収集されている書籍辞書が発行されている²。しかし、現在はこのリソースが多様化し、電子辞書をはじめ、ウェブ辞書、パソコン専用の辞書アプリケーション、携帯電話専用の辞書アプリケーションなども使用されるようになりつつある。このような多様化の時代において、ウズベキスタン人日本語学習者の辞書の使用状況についての調査は、まだ行われていなく、学習リソースの実態を把握するために行う必要がある。本稿では現在タシケントで日本語を学ぶ学習者を対象に、学習者が使用している辞書についてアンケート調査及びフォローアップインタビューが行う。そして、結果を分析し、辞書使用の実態を報告する。最後に調査の結果を踏まえ、学生向け辞書の可能性について考える。

4. アンケート調査の概要

アンケート調査の概要は以下のとおりである。

- (1) 調査時間：2013 年 9 月～10 月半ば(約 1 ヶ月半)
- (2) 調査方法：アンケート調査用紙(19 問)を配布し、回答後に回収
- (3) 調査言語：ウズベク語及びロシア語
- (4) 調査対象：タシケント国立東洋学大学 2～3 年生 29 名、タシケント国立外交大学 2～5 年生 39 名、UJC(ウズベキスタン・日本センター39 名) (合計 107 名)

¹国際交流基金 HP (<http://www.jpff.go.jp/j/japanese/survey/country/2011/uzbekistan.html#RYAKUSHI>)

²2004 年 7 月に UJC から出版された『日本語ウズベク語学習辞典 Yaponcha-O' zbechaO' quvlag' ati』(IWWA 辞書作成委員会編)と同じデータを基に、語彙数約 2,000 語の辞書を作成した。

(5) 調査内容：

- ① 回答者情報：所属期間・日本語レベル・母語・日本語以外の授業の公用語
- ② 所持又利用している辞書
- ③ 辞書タイプ別に使用頻度
- ④ 辞書の使用目的
- ⑤ 辞書に載っている例文の評価
- ⑥ 辞書を使用する際に便利そして不便だと感じることや気をつけていること
- ⑦ 欲しい辞書のイメージ

(6) アンケート調査の結果を踏まえ、辞書の使用についてのインタビュー(5名)及び考察以下、辞書使用の実態を調査内容に沿って述べる。

5. 調査結果と分析

5-1. 調査内容：回答者情報

アンケート調査はタシケントの3つの日本語教育機関で行った。回答者はタシケントの日本語学習者で、日本語レベルは初級後半から中上級レベルまでである。

回答者の母語に関してはウズベク語母語話者 63 名、ロシア語母語話者 42 名、その他の言語母語話者が 2 名である。日本語以外の科目をウズベク語で受けている学生数は 52 名で、ロシア語で受けている学生数は 55 名となっている。この 55 名中、42 名はロシア語母語話者、12 名はウズベク語母語話者、1 名はカカパク語母語話者であり、ロシア語母語話者以外の学生はロシア語が使用できない。現在中級レベルに対応する日本語・ウズベク語辞典がなく、この学生たちはいったいどの辞書を使っているのか、それとも自分で辞書を作っているのか、またロシア語や他の言語での辞書を使っているのなら、どのように使っているかについても興味深い問題である。

表 1 回答者が日本語以外の科目を受けている言語

	ロシア語で受けている学生	ウズベク語で受けている学生
ロシア語母語話者	42 人	0 人
ウズベク語母語話者	12 人	51 人
他の言語話者	1 人	1 人
合計	55 人	52 人

5-2. 調査内容：所持、利用している辞書

表 2 書籍タイプの辞書の所持又利用について (回答者 107 人；複数回答あり)

人数	(%)	日本語学習者の書籍辞書名
47 人	44%	『研究社和露辞典』
28 人	26%	『露和辞典』
18 人	16.8%	『日本語ウズベク語学習辞典』2000 語、2004 年
18 人	16.8%	『日本語国語辞典』
27 人	25%	日本語の辞書を持っていない
その他 7 人	6.5%	『学習漢字字典』、『講談社』、他の和露辞典 / Pocket Progressive Japanese-English dictionary/ Kenkyuhsya's little dictionary/ Eng-jpdic/ Jp-Rusdic

上の表から、『研究社和露辞典』が一番多く使われていることが分かる。露和辞典に関する辞書のタイトルや出版社を具体的に記入していない回答者がいたが、インタビューにより小さいものから大きい露和辞典まで使用していることが判明した。それから、ロシア語を母語としない学習者は、初級の段階では大半が基礎語彙 2,000 語を収集した『日本語ウズベク語学習辞典』を使っているが、中級になると、レベルに相応した辞書がないため、分からない単語を母語に直す際、日本語から英語、英語からロシア語、ロシア語からウズベク語という過程をとったり、日本語の『国語辞典』を利用していることが明らか

かになった。以上のことから、学習者の負担が大きいことが分かる。学習をスムーズに進めるためにも、使いやすい学習者向け辞書を作成する必要がある。

表3 電子辞書の所持 (回答者 105 人)

電子辞書	学生数合計	(%)
持っている	17 人	16%
持っていない	88 人	84%

電子辞書はウズベキスタンに 1995 年以降に入ったと予想できるが、現在もウズベキスタン人にとっては高額な上、入手することが困難である。また、日本語・ウズベク語辞典の電子辞書は存在しない。

表4 ウェブ辞書の使用 (回答者 100 人)

ウェブ辞書	学生数合計	ウェブ辞書	学生数合計
使っている	59 人	Google translator を使っている	50 人
使っていない	41 人	他の辞書 Jihyo.org;yakusu.ru;dicter	9 人

上の表から電子辞書の代わりに頼りになるのはウェブ辞書であることが分かった。ウェブ辞書を使っている学習者が半分以上を占めていて、最も多く利用されているのは Google translator である。また、全然使っていないと答えた学習者も多く、41 人を占めている。他にウェブ辞書には jishyo.org、yakusu.ru、dicter が使われていることが明らかになった。

表5 パソコン専用の辞書アプリケーション (回答者 107 人)

人数	パソコン専用の辞書アプリ名
35 人	YARXI
30 人	WAKAN.exe
3 人	1) Jar Dic 3) Tagainijisho 2) Quickshelf 4) БЯРС(WARODAI)
39 人	使っていない

107 名の回答者のうち、パソコン専用辞書アプリを利用する学生は 68 名で 64% を占めていて、それに対して使用していない学生は 39 名で 36% となっている。調査上、大学別に優先される辞書が見られ、YARXI は主にタシケント国立東洋学大学、WAKAN は世界経済大学の学生に使われ、ウズベキスタン・日本センターは YARXI と WAKAN の他に、様々なアプリケーションを効果的に使っていることが分かった。この理由は、各大学が一つのグループや集団を作り、教師、また一人の学生が他の学生に勧めることで、それがみんなに伝わり、使用されるようになったことが予測される。ウズベキスタン・日本センターのほうは集団というより皆一人一人で行動し、個人的にネットで見つけた辞書を利用していると言えよう。

表6 携帯電話専用の辞書アプリケーション(回答者 102 人)

携帯電話用辞書	学生数合計	(%)
使っている	50 人	49%
使っていない	52 人	51%

回答者中 50 人は Android 携帯電話や SAMSUNG galaxy note などを持っていて、使っている辞書アプリには Kotoba-chan、dicter、tagainijishyo、google translator などを使用していることが分かった。

以上、回答者が所持、利用している辞書についての分析をまとめると、辞書の多様化に応じて、回答者が効果的に様々な種類の辞書を使用していて、半分はなんらかの電子書籍辞書を持っていて、残りの半分以上は未だに書籍タイプの辞書に頼っていることが分かった。また、フォローアップインタビューの際に、短時間で調べられること、使いやすいことから、まず電子辞書やウェブ、携帯、パソコン専用の辞書アプリで知らない単語や句を調べ、それでも意味や使い方が理解できない場合は書籍の辞書で調べるといった意見も聞かれた。

表 7 学習者の所持、利用している辞書

辞書タイプ	持っている	持っていない
書籍辞書	75%	25%
携帯電話専用の辞書アプリ	49%	51%
パソコン専用の辞書アプリ	64%	36%
ウェブ辞書	59%	41%
電子辞書	16%	84%

5-3. 調査内容：辞書の使用頻度

表 8 辞書のタイプ別使用頻度

辞書タイプ	一ヶ月 2、3回	一週間に 1、2回	一週間に 3、4回	毎日	使用人数 の合計
書籍辞書	13	24	28	15	80
携帯電話専用の辞書アプリ	4	9	10	28	51
パソコン専用の辞書アプリ	7	14	24	23	68
ウェブ辞書	19	10	9	14	52
電子辞書	0	0	8	9	17

この表は辞書タイプ別の辞書の使用頻度を表している。データから書籍タイプの辞書を使用する人数が一番多いことが分かる。しかし、パソコン専用辞書アプリと携帯電話専用辞書アプリ使用の合計は書籍タイプ辞書の合計より少ないが、毎日使うと答えた回答者の人数が多い。つまり、書籍タイプの辞書は必要に応じて使われ、毎日頻繁に使われているのは携帯電話用辞書とパソコン用辞書アプリだと言えよう。また、インタビュー調査により、初中級レベルの学生には課ごとに語彙リストが配られたり、教科書の別冊で語彙リストが付属されていることが分かった。そのため、辞書を利用して語の意味を確認する習慣が身につけていないと言える。ウェブ辞書はパソコンや携帯電話より費用がかかるため、使用する頻度が低いことが明らかになった。

5-4. 調査内容：辞書の使用目的

表 9 辞書の使用目的（回答者 71 人：複数回答あり）

問	辞書の使用目的	人数	%
1	漢字の読み方を調べるため	69	97
2	授業の課題：作文や発表原稿を作るため	69	97
3	予習と復習など日本語の勉強のため	64	90
4	授業中、分からない単語の意味を調べるため	63	89
5	翻訳および通訳のため	62	87
6	単語の用法を調べるため	59	83
7	授業以外の娯楽の読書や映画を鑑賞するため	46	65
8	文型文法を確認するため	39	55
9	日本語で雑誌や新聞を読むため	33	46

10	日本人の友達とやりとりするメールをするため	26	37
11	日本人の先生とメールでやり取りするため	26	37

辞書使用の目的に関する項目では、辞書は主に日本語の学習のために使われていることが言える。また、授業外の活動にも、日本文化や日本人とのコミュニケーションを楽しむために使われる傾向も見られた。

5-5. 調査内容：辞書の例文に関する評価

回答者に、よく使う辞書と、辞書に示されている例文を評価してもらった。回答者は20名であった。調査方法は、インタビュー調査で、その結果電子書籍の辞書には例文が少ないこと、書籍辞書の例文が難しいこと、文脈がないこと、漢字や使われた文型が分からないため評価できなかったという回答があった。

5-6. 調査内容：使用している辞書への学習者の感想

表 10 辞書のタイプに関する長所と短所

辞書タイプ	良い点	悪い点
書籍の辞書	説明が詳しい、例文が多い、いつも手元にある	漢字にルビがついていない、調べるのに時間がかかる、重い
電子辞書	コンパクトである、短時間で調べられる、	初級レベルの人には使えない、収録語彙が少ない、字が小さすぎる、高価である
携帯電話専用の辞書アプリ	混乱させる異常な例文がない、漢字の読みができる	
パソコン専用の辞書アプリ	収録語彙が多い、例文が多い、漢字の読み方や発音を聞ける	持ち運べない

それぞれの辞書のタイプに関して長所と短所を答えてもらった。具体的に、書籍タイプの辞書について、「説明が詳しい、例文が多い、いつも手元にある」と述べ、一方、「漢字にルビがついていない、調べるのに時間がかかる、重い」という意見があった。電子辞書や携帯電話専用の辞書アプリについて、「コンパクトである、短時間で調べられる、混乱させる異常な例文がない、漢字の読みができる」と述べ、「初級レベルの人には使えない、収録語彙が少ない、字が小さすぎる、高価である」など弱点を主張していた。最後に、パソコン専用の辞書アプリについて、「収録語彙が多い、例文が多い、漢字の読み方や発音を聞ける」と述べ、持ち運べないことの欠点が述べられた。

5-7. 調査内容：欲しいと思っている辞書のイメージ

現在よく使用している辞書の長所、あればいいと思っている要素で高く評価されている項目をいかに絞ったものである。

- 1) 母語訳のある辞書、どの言語の人でも調べられる唯一の辞書(日本語彙入門書)
 - 2) 絵がついてある辞書
 - 3) コンテンツ
 - 漢字： 漢字の由来、書き準、読み方、ウズベク語での書籍の漢字ブック
 - 文法： 似た文法の用法、助詞の用法と用例
 - 語彙： 最大数の現代語収録(反対語/類義語/新語/若者言葉/専門用語/定型表現)及び使われる文脈
 - 音声： 発音
- + α :
- ・辞書シリーズ：文型、漢字、語彙、国語辞典、専門別用語辞典
 - ・3IN1 辞書(文字+語彙+文法)お互いに連携があり、お互いにアクセスできる辞書
 - ・YARXI と LINGVO の日ウズバージョン

- ・持ち運びやすい、使いやすい、短時間で調べられる
- ・言葉に関するすべての情報を一つの辞書に掲載されていること
- ・無料または低コストのもの

- 4) 操作機能について
- ・節や文の翻訳ができる辞書
 - ・発音が聞ける辞書
 - ・すべての言語の言葉が見つけれられる
 - ・コンデンサーのある辞書
 - ・ライトの改善
 - ・手または指で書ける機能
 - ・オフラインで使用できる辞書

6. フォローアップインタビュー及び考察

アンケートの結果及びフォローアップインタビューを踏まえ、学習者の辞書使用状況、学習者が評価している辞書の要素、学習スタイルの変化という、3つの観点から考察する。

6-1. 学習者の辞書使用状況

- ① 学習者は書籍の辞書を入手することが難しい。以前は大学から1年間借りるようになっていたものが、現在は数が少ないことや学習者が増えていることから、10日間しか借りられないようになった。一方、電子書籍の辞書の使用頻度が増えつつある。
- ② 留学経験者は電子辞書を持っているが、実際の使用となるとパソコン辞書の利用が多いことが分かった。ほとんどが日本とロシア発の国語辞典に基づく辞書である。ウェブ辞書は費用がかかったり、接続の問題が生じたりするためパソコン辞書より利用する頻度が少ないことが分かった。
- ③ 5割の学生が携帯電話用の辞書アプリケーションを知っていて、よく使用している。しかし、ほとんどが和露や和英辞書のため、ウズベク人向けの良質な携帯電話用の辞書アプリケーションは今後の課題である。

6-2. 学習者が評価している辞書の要素

現在よく使用している辞書の長所で高く評価されている項目、辞書に求める要望は以下のとおりである。

- ① 母語訳のある辞書、日ウズ辞書がよい
- ② 持ち運びやすい、使いやすい、短時間で調べられる辞書
- ③ 言葉に関するすべての情報を一つの辞書に掲載されていること
- ④ 無料または低コストのもの

しかし、現時点ではこれらの点を全て満たすような万能な辞典は存在しない。よって、いくつかの手持ちの辞書を有効に活用できるように、学習者は自分で工夫しなければならない。これに関しては、教師も良質な辞書にはどのようなものがあるかを熟知し、情報として学習者に提供する必要がある。

6-3. 学習スタイルの変化

授業中または自習の際、漢字の読み方も意味も分からない場合、書籍辞書より携帯辞書のほうが非常に便利だと感じるため、携帯電話を使う傾向が見られる。最近便利で使いやすい辞書が様々な形態で現れてきて、学習者はすでに存在している書籍タイプの辞書を入手する必要性を感じなくなったのではないと思われる。ただし、これらの辞書はほとんどが和英と和露辞典であり、学生は日本語を学習するためにロシア語と英語も学習せざるを得ない。そのため、学習に倍の負担を感じている。

終わりに

学習者向け辞書の可能性

現在、辞書を使用している学習者の中には辞書使用によって不自然な日本語を使っている学習者がいる。これはまず、日本語から英語に訳し、英語からロシア語、次にウズベク語という順番を踏むために言葉の本来の意味が変わってしまうことが原因と考えられる。以下、よく生じる誤用である³：

³用例はタシケント国立東洋学大学、准教授菅野玲子による

1. 辞書をそのまま誤用する例

？人間は化育する動物である。

「進化する」が適当であるが、辞書に出ている言葉をそのまま使用した誤用である。

2. 母語から転用して使用する例

「働く」を初級でロシア語で「ラボタチ」と訳がインプットされるとその転用で、日本語に使用する際、不自然な文となる。

・今日はデパートは働いていません。→ 営業していません。休業です。

・エレベーターは働いていません。→ 動いていません。

・この電話は働いていますか。→ 通じますか。

「ひまな」 → 「スボボドナ」

・この席ひまですか。 → あいていますか。

以上の要因と学習者の希望を踏まえ、タシケント国立東洋学大学の教員が媒介語のない日本語辞書「日本語語彙入門書」の作成の可能性や効果を考えている。例えば、例文がたくさん掲載されている、絵がついている、コロケーションがついているなどであり、これらの情報はパソコンまたは携帯電話で使える辞書が望ましい。

参考資料

ジュマエフ・ラヒモナリ(2011)「ウズベキスタン及びウズベキスタンの日本語教育の紹介」

(https://www.lang.nagoya-u.ac.jp/nichigen/menu7_folder/symposium/pdf/11/02.pdf 2014年9月27日閲覧)

鈴木智美(2012)「留学生の辞書使用について実態調査—東京外国語大学で学ぶ留学生へのアンケート調査の結果と分析」『留学生日本語教育センター論集』第38号、東京外国語大学

スルヤディムリア・アグス・スヘルマン(2012)「インドネシアでの日本語学習辞書開発の状況」、パジャジャラン大学 (<http://jishokaken.sakura.ne.jp/doc/Malaysia/M4.pdf> 2014年9月27日閲覧)

タサニー・メーターピスィット(2000)「タイ人日本語学習者の辞書使用状況の調査」『学術情報センター紀要』第12号、タマサート大学 (<http://jishokaken.sakura.ne.jp/doc/Malaysia/M5.pdf> 2014年9月27日閲覧)

国際交流基金 HP (<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2011/uzbekistan.html#RYAKUSHI> 2014年9月27日閲覧)